

伏見の伊達街道

仙台市博物館 学芸企画室 明石 治郎

第15回

伏見の伊達屋敷

伏見（京都市伏見区）は、一六世紀末から一七世紀初めに豊臣・徳川の城地でしたが、元和九年（一六二三）に伏見城はその役割を終えて破却されます。それに伴い、城下の大名屋敷も廃棄されましたが、現在の伏見には屋敷跡に由来する地名が多くみられます。

伊達政宗は伏見に三つの屋敷を持っていました。現在の桃山町正宗、寛永二年（一六二五）の当地の検地帳では「正宗屋敷」にあつたのが上屋敷です。城下の北の郊外にあたる深草には西伊達町・東伊達町の地名があり、この屋敷地は豊臣秀吉から「伊達町」の名が与えられています。また、桃山町正宗と伊達街道

を挟んで西に位置する桃山最上町には伊達町の小地名があります。この伊達町は、寛永二年の検地帳では「正宗下屋敷」の地名だった所だと考えられます。

伏見の伊達街道

伊達街道は、藤森（伏見区深草藤森町）の南を北の起点とする南北の道で、全長は二キロメートルに足りません（図版の地図参照）。「伊達街道」は過去にそう呼ばれていたというのではなく、現在普通に用いられている名称です。

その名は政宗の屋敷に由来するとされるのですが、藤森から深草の伊達町には延びていないので、伊達屋敷跡地の間をつないでいません。また、いつごろか

らの呼称なのかも明らかではありません。とはいえ、「伊達」の字は政宗の屋敷に關係付けられたものなのでしょう。この道沿いには、かつて最上・前田・細川・福島・池田などの大名屋敷も立ち並んでいましたから、その代表として「伊達」が採用されたことになりました。

ところで、『川角太閤記』に、政宗が藤森で遊女たちと藤の花見をしていたら、掏摸の集団に囲まれて喝上げされたというエピソードがあります。話の真偽はともかく、伏見城下と深草の伊達町の中間地であり、伊達家中の人々が多く行き来する藤森は、政宗が油断してもおかしくない所だったのかもしれない。

今回は番外のお話となりましたが、その昔、伊達家中の人々が行き交った道筋を歩いて、伊達家のゆかりを見つけたたり、政宗が活躍した伏見城下をのんびりみるのも一興ではないでしょうか。

赤色が伊達街道のルート。南部の数百メートルを省略。伏見城跡は桃山町正宗の東南(右下)方面。『1万分の1地形図 伏見』(国土地理院、1997)



無料アプリ ミュージアム展示ガイド

ポケット学芸員

Museum guidance Application Pocket Curator

を使った資料解説をしています!

仙台市博物館の主な収蔵資料を画像や文字、音声で紹介しています。詳しくは **ポケット学芸員** で検索、またはQRコードからアプリ公式サイトをご覧ください。



仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ
▶博物館ツイッター

仙台市博物館 検索
@sendai_shihaku

▶お問い合わせ

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)
TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝休日を除く

※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。